

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 4 区分
【発行日】令和 5 年 10 月 24 日(2023.10.24)

【公開番号】特開 2023-7016(P2023-7016A)
【公開日】令和 5 年 1 月 18 日(2023.1.18)
【年通号数】公開公報(特許)2023-010
【出願番号】特願 2021-109962(P2021-109962)
【国際特許分類】

H 0 2 K 3/04(2006.01)

10

【F I】

H 0 2 K 3/04 J

H 0 2 K 3/04 E

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 10 月 16 日(2023.10.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【0032】

接続端部 17 は、ステータコア 14 の端部から露出し、接続先となる他の接続端部 17 に向かって延びる。本実施形態では、回転軸 X を中心する円の周方向に沿って異なる位置のコイル線 16 同士が接続される。このため、互いに接続される 2 つのコイル線 16 のうち一方のコイル線 16 の接続端部 17 は、ステータコア 14 の端部から延出するのに連れて、前記周方向に沿って接続先となる他方のコイル線 16 に向う傾斜部 17 a を含む。傾斜部 17 a は、回転軸 X に対して交差する方向に延在している。傾斜部 17 a の先端部に、回転軸 X 方向に沿ってステータコア 14 とは反対側に向かって延びる直線端部 17 b が設けられる。また、互いに接続される 2 つのコイル線 16 のうち他方のコイル線 16 の接続端部 17 は、ステータコア 14 の端部から延出するのに連れて、前記周方向に沿って接続先となる一方のコイル線 16 に向う傾斜部 17 a を含む。傾斜部 17 a の先端部に、回転軸 X 方向に沿ってステータコア 14 とは反対側に向かって延びる直線端部 17 b が設けられる。互いに接続される 2 つのコイル線 16 のうち傾斜部 17 a の先端部と直線端部 17 b とは、前記周方向において当該 2 つのコイル線 16 の中間（ここでは中央）位置に配置される。そして、2 つのコイル線 16 のうち傾斜部 17 a の先端部と直線端部 17 b とが、回転軸 X を中心とする円の径方向において重なり合うことができる。なお、コイル線 16 の横断面における長手方向は、前記周方向に対する接線方向に沿っていてもよい。この場合、傾斜部 17 a の先端部と直線端部 17 b とが大きい面積で接触することができる。

30

【手続補正 2】

40

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

クリップ 30 は、ばね鋼、樹脂等の弾性を有する材料により形成される。クリップ 30 は、基部 31 と、一对の弾性片 32 とを備える。基部 31 は、板状に形成されている。一对の弾性片 32 は、基部 31 の両側縁から基部 31 の一方主面側に延び出る板状に形成されている。一对の弾性片 32 は、基部 31 から遠ざかるのに連れて互いに接近する方向に向う部分を含む。一对の弾性片 32 の先端部は、基部 31 から遠ざかるのにつれて互いに

50

離れる方向に向う先端ガイド部 33 を含む。初期形状において、一对の弾性片 32 のうち最も狭い部分の間隔は、上記 2 つの接続端部 17 を重ね合せた厚み寸法よりも小さく設定される。先端ガイド部 33 のうち最先端部の間隔は、上記 2 つの接続端部 17 を重ね合せた厚み寸法よりも大きく設定されてもよい。クリップ 30 は、一对の弾性片 32 の幅を変えるように弾性変形可能に構成されている。一对の弾性片 32 の幅が初期形状における幅よりも広げられると、クリップ 30 自体の弾性力、特に、基部 31 から弾性片 32 に至る部分が呈する弾性力によって、一对の弾性片 32 が接近方向に付勢される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0072

10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0072】

[変形例]

20

30

40

50